

「わたしのゴルフ人生」

プロゴルファー 金井清一氏

平成十七年度のJネット文化講演会は、平成十八年一月二十九日に市ヶ谷私学会館で、郷土牧区出身のプロゴルファー金井清一さんに講演をいただきました。

雪深い山郷からの旅立ち、プロになるまでの苦労話、ゴルフの初級者から上級者まで通じる講義を、まだ残っている越後訛を交えての金井節で、八〇人を超えるゴルフファンを楽しませてくれました。

続いて行われた懇親会でも手取り足取りら打数を減らす為の講義をしていただき感謝です。

概要をかいつまんで紹介いたします。

生まれは牧村の吉坪だよ。今は、お医者さんもない過疎。

今年は何回も雪降ろしたと兄貴から連

絡があった。一日三回除雪車で道路の雪をかいてもらった。昭和二十年の大雪は、覚えてる。そんなところに住んでいて、何でゴルフのブロになっちゃったか。子供の頃にトランジスタラジオを作っていた技術屋が。

東京神田の広瀬無線に入社し、すぐに技術研究所にまわされた。屋上に練習場があり、インストラクターが我孫子カントリの小池五郎さん。

試しにやってみましたが、もの見事に空振り。小池五郎さんのお兄さんが、東京都民ゴルフ場のキャデマスタをしてもらった。休みになると、都民ゴルフ場でゴルフを覚えた。スライスでクラブハウスのガラスを割り、しばらく出入り禁止。

小池さんは月に四万円もらい、俺は九千円ちょっと。電気でしびれているよりいいぞ。広瀬無線は二十歳で辞めた。

小池さんのお兄さんのアパートにテレ

ビ一台持って住みついたのである。小池さんの縁で青木功を知る。青木はまだプロじゃない。鷹果さんはプロの成りたて。「金井ヨ、お前のバンカーどうしようもないなあ。」佐藤精一さんや林由郎さんがお師匠さん。

青木のバンカーショットは、魔法がかつて止まる。「どうやって打つの。」こうやって打つんだよ。感覚的に覚えるんだよ。」そして、「青ちゃんさあ、本に五センチ手前で打てと書いてあるから、五センチ手前で打っているんだけど。」「お前のは、五センチよりもっと手前で打っているよ。だから、だめなんだ。」「青木ちゃん、何処をみて打っているの。」「俺、なにも見てねえよ。」

二十四歳でプロテストに合格するも、試合が少なくて出番がなかった。友人が「金井、家造ったか。」というから「俺、四万円だよ。」寂しい。毎朝都民ゴルフ場でラニングして、セルフカートでハーフまわった。鷹果さんに「お前な、もうじき三十だろ。結婚もしないで。」とゴルフを諦めさせようとした。しかし一九六九年に関東オープンで三位入賞の実績でジャンボと一緒に鷹果さんに連れられて、アジアサーキットに行った。好成绩でカン八百万円を使わなくて済んだ。鷹果さんに、「お前自信ついたらう。」と言われ「はい、つきました。」「じゃあ、もつとやっ

てみる。」と。

府中カントリでのJALオープンでは、最終組でデービットクラハムと組む。四位に入賞。スリーポンドの社長の目に留まり、「俺の会社に来て、トリーナメントプロやってみないか」と言われて、いきなり経費込みで二千万くらいもらうことになる。こんなにお金もらって俺は何をすればいいんですか。といったら、会社のお客さんとまわってくれたり、とにかく優勝するようにがんばれられてくれ。翌年優勝できた。無欲の勝利。ジャンボとの最終日に、貧乏時代にお世話になった人から、勝った、負けたは



どうでもいいから、と激励があった。

相変わらず、ジャンボが八番とか九番アイアンで打つところを俺は四番ウッドとか三アイアンで打ち、寄せワンで切り抜けた。ジャンボの自滅で逆転して栄冠を勝ち得た。

東海大学の田中教授に「筋肉を強化したいのです。今更電気屋に戻っても真空管の時代は終わりましたので、何とかしてください。」と無理やりをお願いした。一年を通じて三十試合に出た。日曜日の夜帰ってきて、月曜日東海大学に行き、火曜日は次のトーナメント会場に行き練習ラウンドをして、水曜日はプロ・アマ戦。木曜日、金曜日予選、決勝に残っても、下位なら赤字。プロゴルフファーターそんないい商売ではない。

まだまだ話したいことがいっぱいあるけれど、上越の人にまたお目にかかるとして何か質問を。

質問 牧村の過疎からお出でになったわけですが、プロ生活なさっていて牧村をどのくらい思い出し、牧村で生まれてよかつたなあと思いませんか。

プロ 僕は自分で言っちゃあ何ですが、この体ですから粘るしかないんですよ。食らいついたらスッポンじゃないですけど離さないぞと。

だからもの凄く嫌がられました。優勝争いしたときには、レギュラーで十七回、シニアでも十七回勝ってます。その殆どが粘りで勝っています。

思い出すに、やはり皆さん上越市でも平らなところに住んでいらっしやるのでしようけど、僕のところは、田んぼが牛も入れられないような狭いところで段々になっていて、刈入れの時は稲を背負って、わらじ履いて泥の中を草にしがみつきながら踏ん張る。田中教授にもいわれました。この足の先の感覚は小さい頃に養ったものでないとダメなんですってね。ですから、僕は本当にそういうところで生まれ育ったお陰で負けじ魂ができたと思います。

質問 私(女性)、花粉症でバター打つとき非常に大変なんです。

プロ わたしも鼻炎です。温度変化とほこりが大敵。きれいな女性を見るとクシャミ。

質問 レッスンブックを読んでいるんですが、効果が出ません。

プロ 英訳は読まないほうがいいよ。読むなら英文のまま読んだほうがいい。辞書を引きながら、偶に誤訳があるから、俺の本を読みなさい。

質問 五十九歳でシニアプロになられた古市さんをどのように評価されていますか。

NHKの朝の四時から「心の時代」で話しを聞き、すごい人だと思いました。

プロ どなたでもシニアに入れる制度を作ったのは、わたしです。神戸の震災で焼け残ったゴルフバックでがんばってプロテストに合格。努力は凄いものがあります。タイガーとも一緒にまわっておられます。ただ、息子さんがどうやってプロテストに受からないのが残念です。評価して僕はそんな偉い人間じゃないですから、あの人に敬服するのみです。世のため、人のためにも尽しておられる。常に感謝の気持ちを持っていらっしやる。自分一人じゃ出来ない。皆さんのおかげだというすばらしい気持ちを持っていらっしやる。





井手理事の乾杯



和久井会長の挨拶



金井さんを囲んで





レッスン



「疲れたわ」



当たった



「春日山頭松風吹く風に…」



「金井さん、ありがとう」

